

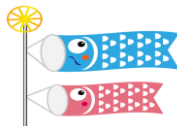
五月をサツキと呼ぶのは、早苗月を略したものです。「サ」は田の神を意味する言葉で、田植はじめの行事をサオリ、田植の終わりの行事をサノボリと呼ぶのは、田の神が天上から降臨するのを迎え、また昇り帰られるのを送る意味です。サツキは田の神祭りの月のことで農民にとつては最も大切な季節でありました。

この季節に最も生命の躍進を象徴するものは菖蒲で、緑刀の如く鋭いその葉は、大地より天を刺す如く力強く、沼に、田に、堤に、到る所、深刺とした雰囲気を作ります。全ての邪気を払うであろうとさえ思われる高い香気が、あたりの空気にしみ渡る菖蒲を屋根にさしたり、湯に入れたりして邪気を払い、健康を祈りました。五月五日の端午の節句が、菖蒲の節句ともいわれるゆえんです。



【端午の節供】五月五日こどもの日

端午は月の初めの午の日という意味で、五月は午の月に当たるので重午(ちようご)、午の月の午の日が選ばれ、重五となり、五月五日に固定しました。



武士の時代になってからは、勇壮な行事が端午に集中する傾向となり、さらに尚武(武を尚ぶ)と菖蒲の音通から雛節句と対照する男子の節供とされました。飾り物としては、外飾りとして武者絵の幟、鯉幟、内飾りとして兜や武者人形が並びます。この人形は八幡太郎(源義家)や加藤清正、楠木正成など、尊敬する人物を飾りました。楠木正成とその子正行のお話をご紹介します。

【楠公祭】五月二十五日

「建武中興」に大きな功績のあった楠木正成が、殉節された日。



後醍醐天皇をお守りしていた人達は、次々と北条氏の軍に捕えられ、斬られて、全くひどい時代でした。そのような時、天皇さまは、不思議な夢をご覧になりました。

一本の大木があつて、南にのびた枝の葉が、よく生い茂っており、その下にりっぱな青畳が高く敷き重ねられてあり、南に向いてすわれるようになっていきます。どこからともなく二人の子供があらわれて、天皇さまの前にはひざまずき、『あの木蔭のところだけが、ゆっくりお休みできるところです。』と、さっきの木の下の指さしたかと思つて消えてしまいました。天皇さまは、不思議に思われ、南の枝が茂った木、南の木と考えられ、楠木という姓の人がいて、自分を助けてくれるのではないかと考えつかれ、調べさせると、楠木正成という優れた武士が近くにいることがわかりました。さっそく、楠木正成をよばれ、北条勢を討つようおさせられました。楠木正成は、命がけて天皇のお志にこたえることを誓いました。正成は知恵も深く武にも優れていたのですが、いろんな戦術で敵を悩ませよく戦つたのですが、ついに戦死してしまいました。

父の死を知った少年正行は、仏壇の前に座り、きりりとした瞳で短刀を手にして胸を開き、腹につきつけようとしました。ハツと感じた母は飛び込んで刀の手をしっかりと抑え、目に涙をためて、厳しく正行を見つめました。そして、静かな声で父から子への最後の言葉を繰り返しました。

「七度までも生まれ変わつて国のため世の中のために力を尽くせ」(七生報国)と…

正行の使命—それは父の志をついで天皇さまをお護りすることであると。正行は決心しました。弓、馬術、剣道、一日一日訓練が続く、夜は勉強に励みました。

そして、二十二才の時、楠木一族の軍を率いて、天皇さまをお護りする戦いに加わり、敵を打ち破りました。逃げる敵兵は、先を争つて橋におしかけたため橋がいつぱいになり、五百人もの兵が下の川に落ちました。正行は、「この寒さでは、こごえ死ぬであろう」と、敵兵を助けて引き上げ、火にあたらせてやりました。引き上げられた兵は、正行のやさしい心に感激して正行の軍に加わりました。正行の戦いぶりの立派なのをみた賊軍は十万の大軍で攻めてきました。正行の兵は、わずか三千です。



正行は、吉野に落ちられた後村上天皇に最後のお別れの言葉を申し上げ、後醍醐天皇のお墓参りして如意輪寺に立ち寄り、お寺の壁板に、今度の戦いには生きて帰らない覚悟ですので、討ち死にする者の名前を書き留めますという意味の和歌と一族の名前を書きました。

楠木正行は、四条畷というところで立派に戦い、討死しました。

このまごころを貫いて天皇さまをお護りした楠木正成、正行父子が、神戸の湊川神社にお祭りされています。

五月 和歌コーナー



クラスがえ 二年二くみになったから

いっばいあそぶ 水谷先生

ペランダで てんとう虫を かつている

たまごをうんで びつくりしたよ

こうえんで てんとう虫を 見つけたよ

おうちでビンの ごはんたべてる

こうえんで 白ほしてんとう 見つけたよ

めずらしいから すぐくうれしい

四月には しん入生が やつてくる

ともだちいっばい できるといいな

小学二年 実川 瑠花

☆白ほしてんとうを見つけたなんて、びつくりしました。大事に育てているので、卵を産んだのですね。

たけのかわ うらとおもてが さらにさらだ

たけざいくは ふしぎだな

小学三年 横田 椿

☆竹の皮をさわってみたら、さらさらしていて、気持ちよかったですね。竹でいろんな生活用品が作れるので、びつくりしましたね。

竹ざいく いろいろ作るの たいへんそう
作ってみたい いろんなどうぐを

小学四年 横田 妃奈

☆竹でざるやかごや竹ぐしや耳かき、かさ等、何でも作っていた日本人の知恵は素晴らしいですね。

(スタッフ)

たけのこを たべてつつんで たのしんで

いつもいっしょだ ありがとう

竹細工 ざるやおもちや竹ぐしや

まわりのすべてに ありがとう

古宮 あまさ



竹の節 わが人生の先を見る

心機一転 新たな出発

倉田 江美子

たけのこの 香り手ざわり なつかしい

ざるやおもちやに 亡き母想う

越智 京子

子、曰く

「君子は其の言の、其の行に、
過ぐるを恥ず。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「君子とは自分の言葉が実際の行動以上に大げさになってしまふことを恥と考えるものである。」

(解説)

言葉ばかりで、行うことができないのは、恥ずかしいことですね。まず、正しい行いができることが大切です。

「(こども論語塾)より」

次回は、六月二十五日(土)です。

(文責・藤波)